5　　の離れわざ 　文法　動詞③　上一段・下一段活用

次の話は、卿に関する逸話である。

七、八人をならべさせて、にⓐ居たるより次第に肩を踏みて、をはきながらをられけり。その中に法師一人ありけるをば、肩より㋐やがてを踏みてられけり。かくすること一両終はりて、鞠をとりて、「①いかがおぼゆる」と問はれければ、「肩に御沓の当たりふとはおぼえ候はず。を手にゑたるほどにぞおぼえ候ひつる」とおのおの申しけり。法師はまた、「をⓑ着たるほどの心地にて候ひつるぞ」とぞ申しける。

また、父の卿に㋑して、寺にられたりける時、「舞台のを、沓はきながら、渡りつつ鞠を蹴ん」と思ふ心つきて、すなはち西より東へⓒ蹴て渡りけり。また立ち返り西へ返られければ、ⓓ見る者目を驚かし、②色を失ひけり。

語注

平笠＝かぶる部分の浅い笠。

舞台＝京都の清水寺にある舞台で、いわゆる「清水の舞台」のこと。切り立ったの上にあり、非常に高くて危険な場所である。

基本古語

おぼゆ（ヤ下二）＝感じられる。

【原文】

七、八人をならべさせて、に居たるより次第に肩を踏みて、をはきながらをられけり。その中に法師一人ありけるをば、肩よりやがてを踏みてられけり。かくすること一両終はりて、鞠をとりて、「いかがおぼゆる」と問はれければ、「肩に御沓の当たりふとはおぼえ候はず。を手にゑたるほどにぞおぼえ候ひつる」とおのおの申しけり。法師はまた、「を着たるほどの心地にて候ひつるぞ」とぞ申しける。

また、父の卿にして、寺にられたりける時、「舞台のを、沓はきながら、渡りつつ鞠を蹴ん」と思ふ心つきて、すなはち西より東へ蹴て渡りけり。また立ち返り西へ返られければ、見る者目を驚かし、色を失ひけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

蹴鞠の名手である成通は、〔　　　　〕を蹴りながら、座らせた人々の〔　　　〕や〔　　　〕を踏んで通った。またあるときは、清水の舞台の〔　　　　　〕を渡りながら〔　　　〕を蹴り、見ていた者を驚かせた。

問二　波線部㋐・㋑の意味を選べ。〈3点×2〉

㋐　ア　そのまま　イ　すぐさま　　ウ　とうとう　　エ　だんだん

㋑　ア　挑戦して　イ　頼み込んで　ウ　連れ立って　エ　逆らって

㋐〔　　　〕　㋑〔　　　〕

問三　チェック問題　動詞③　上一段・下一段活用

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ⓓ | ⓒ | ⓑ | ⓐ | 基本形 |
|  |  |  |  | 語幹 |
|  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
|  |  |  |  | 活用の種類 |

二重線部ⓐ〜ⓓの動詞について、次の活用表を完成させよ。〈2点×4〉

問四　傍線部①について、

⑴　解釈として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　どのような感じであったか　　イ　いつ習ったのか

ウ　何が見えたか　　　　　　　　エ　どのように覚えているのか

〔　　　〕

⑵　この成通の問いかけに対して、人々がえを用いて評している箇所を、本文中から十字以内で二つ抜き出せ。〈6点×2〉

・〔　　　　　　　　　　　　〕

・〔　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部②の理由として最も適当なものを選べ。〈10点〉

ア　天罰が下るような場所で父の卿が成通に蹴鞠をさせたことに、情け容赦ないことと哀れんだから。

イ　大きな舞台でも素晴らしい蹴鞠をする成通の技術に、我が目を疑うほど圧倒されたから。

ウ　常人では到底できない蹴鞠をし続けている成通に感嘆し、その集中力を削いではならないと思ったから。

エ　命を失うような危険な場所で成通が蹴鞠をしたことに、顔色が変わるほど驚いたから。

〔　　　〕

問六　本文における成通の説明として最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　人々を喜ばせると同時に自分も楽しんでいる。

イ　蹴鞠の技術を鼻に掛けて観衆をからかっている。

ウ　周囲の人々に迷惑をかけることを面白がっている。

エ　人並み外れた蹴鞠の技術に得意になっている。

〔　　　〕

【解答】

問一　小鞠　肩　頭　高覧　鞠

問二　㋐＝ア　㋑＝ウ〈３点×2〉

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ⓓ | ⓒ | ⓑ | ⓐ | 基本形 |
| （見） | （蹴） | （着） | （居） | 語幹 |
| み | け | き | ゐ | 未然形 |
| み | け | き | ゐ | 連用形 |
| みる | ける | きる | ゐる | 終止形 |
| みる | ける | きる | ゐる | 連体形 |
| みれ | けれ | きれ | ゐれ | 已然形 |
| みよ | けよ | きよ | ゐよ | 命令形 |
| マ行上一段活用 | カ行下一段活用 | カ行上一段活用 | ワ行上一段活用 | 活用の種類 |

問三　〈2点×4〉

問四　⑴　ア〈6点〉

⑵　・鷹を手に据ゑたるほど（10字）〈6点×2〉

・平笠を着たるほど（8字）

問五　エ〈10点〉

問六　エ〈8点〉

【現代語訳】

（成通が）侍七、八人を並べて座らせ、端に座っている者から順に肩を踏んで、くつをはいたまま小鞠を蹴りなさった。その中に法師が一人いたのを、肩からそのまま頭を踏んでお通りになった。（成通が）このようにすることが一、二回終わって、鞠を手に取って、「どのような感じであったか」とお尋ねになったところ、「肩におくつが当たりますとは感じられません。鷹を手に据えた程度に感じられました」とそれぞれが申し上げた。法師はまた、「平笠を身につけた程度の感じでございました」と申し上げた。

また、（成通が）父の卿に連れ立って、清水寺にこもりなさっていた時、「舞台の手すり（の上）をくつをはいたまま、渡りながら鞠を蹴ろう」と思う気持ちが生じて、すぐさま西から東へ蹴って渡った。再び折り返し西の方へ戻りなさったので、見る者は目を驚かせ、顔色を失った。

【補充問題】

問１　「かくすること」（２〜３行目）の指す内容を説明したものとして、最も適当なものを選べ。

ア　侍と法師とが、沓をはいたまま交互に順番を代えて鞠を蹴り合ったこと。

イ　法師が、沓をはいたまま鞠を蹴りながら、侍の肩や頭を一人ひとり踏んでいったこと。

ウ　成通が、侍の肩や法師の頭などを踏みながら、沓をはいたまま鞠を蹴っていたこと。

エ　沓をはいたまま並んで鞠を蹴っている侍の中にいた法師が、侍のまねをしたこと。

問２　「渡りつつ鞠を蹴ん」（６～７行目）の現代語訳として最も適当なものを選べ。

ア　渡っては鞠を蹴るのだろう

イ　渡りながら鞠を蹴ろう

ウ　渡ると鞠を蹴ってはならない

エ　渡ったうえで鞠を蹴ることはできない

問３　「色」（８行目）の解釈として最も適当なものを選べ。

ア　清水寺という大きな舞台の風情。

イ　成通親子の互いを想い合う情愛。

ウ　自分を誇らしく思う成通の感情。

エ　成通の技を見ている観衆の表情。

【補充問題解答】

問１　ウ

問２　イ

問３　エ